

## 16. PCグラウトの流動性試験方法 (JSCE-F 531-1999)

### Test method for flowability of grout for prestressing bar

1. 適用範囲 この規程は、JA 漏斗および JP 漏斗を用いた PC グラウトの流動性試験方法について規定する。

2. 試験用器具 試験用器具は、次による。

- a) 漏斗は、図 1 のように、黄銅製で、JA 漏斗の場合は、上端内径 100 mm、下端内径 8 mm および高さ 351.1 mm で、その下部に内径 8 mm、長さ 30 mm の流出口を有する厚さ約 3 mm のもの<sup>(1)</sup>、JP 漏斗の場合は、上端内径 70 mm、下端内径 14 mm および高さ 392 mm で、その下部に内径 14 mm、長さ 30 mm の流出口を有する厚さ約 3 mm のもの<sup>(2)</sup>とする。

注<sup>(1)</sup> JA 漏斗の内容積は約 1000 ml である。

注<sup>(2)</sup> JP 漏斗の内容積は約 630 ml である。

b) 漏斗を支える台、グラウト上面をならす器具、ストップウォッチなどを用意する。

c) 試験装置は、標準砂を用いた流出試験により入念にキャリブレーションしたものでなければならない。

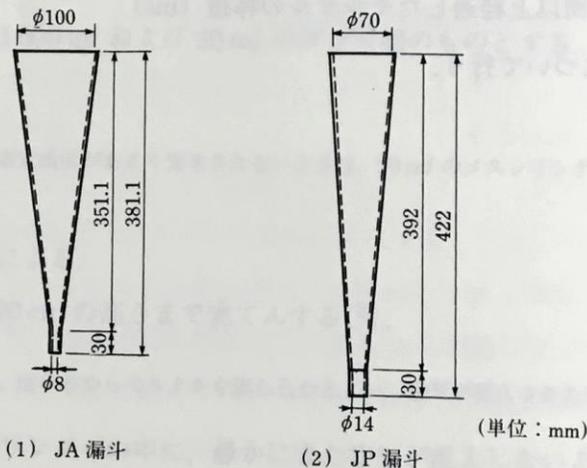


図 1 漏斗

3. 試験方法 試験方法は、次による。

- a) 漏斗を台で鉛直に支持し、水を通して濡らす。
- b) 試料のグラウトを漏斗内に注ぐ。流出口から少量のグラウトを流出させた後、指で流出口を押え、グラウトを漏斗上面まで注ぎ、上面をならす。
- c) 指を離してグラウトを流出させ、流出口からのグラウト流が初めて途切れるまでの流下時間<sup>(3)</sup>をストップウォッチで測定する。
- d) 漏斗内における試料のグラウトの残留状態を観察し、試料のほぼ全量が流出したことを確認する<sup>(4)</sup>。

注<sup>(3)</sup> JP 漏斗を用いる場合は、流出口からのグラウト流が急激に細くなるまでの流下時間とする。

注<sup>(4)</sup> 相当量の試料が塊状で残留している場合は、そのグラウトは不適である。

4. 試験結果 流動性は、漏斗からの流下時間を秒で測定し、これを流下時間（フロータイム）何秒として示す。

5. 報告 報告は、次の事項について行う。

- a) 日時
- b) 天候
- c) 気温
- d) 練混ぜ条件
- e) 材料の品質
- f) グラウトの配合
- g) バッチ番号
- h) グラウトの温度
- i) 流下時間（フロータイム）（秒）

## 19. 充てんモルタルの流動性試験方法 (JSCE-F 541-1999)

### Test method for flowability of filling mortar

1. 適用範囲 この規準は、 $J_{14}$  漏斗を用いた充てんモルタルの流動性試験の方法について規定する。
2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規準に引用されることによって、この規準の一部を構成する。この引用規格は、その最新版を適用する。

#### JSCE-F 531 PC グラウトの流動性試験方法

3. 試験用器具 試験用器具は、次による。
    - a) 漏斗は、図 1 のように、黄銅製で、上端内径 70 mm、下端内径 14 mm、高さ 392 mm および厚さ約 3 mm の  $J_{14}$  漏斗<sup>(1)</sup>とする。
- 注<sup>(1)</sup>  $J_{14}$  漏斗の内容積は約 630 ml である。
- b) 漏斗を支える台、グラウト上面をならす器具、ストップウォッチなどを用意する。
  - c) 試験装置は、標準砂を用いた流出試験により入念にキャリブレーションしたものでなければならない。

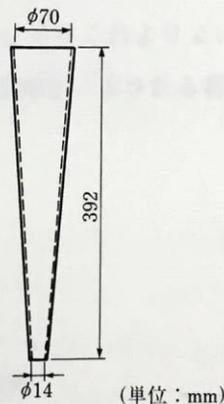


図 1  $J_{14}$  漏斗

4. 試験方法 試験は、JSCE-F 531 に規定する JA 漏斗を用いた場合に準じて行う。
5. 試験結果 試験結果は、JSCE-F 531 による。
6. 報告 報告は、JSCE-F 531 に準じて行う。